

授業科目名	アクティブラーニング演習	単位数	2
担当教員名	天野一哉	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 ・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 ・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 ・共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。 			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) アクティブラーニングを理解する。 (2) アクティブラーニングを活用するスキルを身につける。 (3) アクティブラーニングを指導するスキルを身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>アクティブラーニングの一形態であるプロジェクト・ヘース・ラーニング(PBL)の技法を用い、ディスカッション等のグループワークを通して、課題を設定し、解決策(課題の回答)を探究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：アクティブラーニング</p> <p>第2回：ディープ・アクティブラーニング</p> <p>第3回：学生の関与</p> <p>第4回：教授学理論</p> <p>第5回：協同学習</p> <p>第6回：PBL</p> <p>第7回：主体的対話的深い学び</p> <p>第8回：課題設定(自己)</p> <p>第9回：課題設定(グループワーク)</p> <p>第10回：仮説立案(グループワーク)</p> <p>第11回：調査(グループワーク)</p> <p>第12回：分析/考察(グループワーク)</p> <p>第13回：プレゼンテーション(グループワーク)</p> <p>第14回：省察</p> <p>第15回：展望</p> <p>定期試験</p>			

スクーリングでの学修内容

第1回から第7回（自己学習）までの総括。教員からの問題提起を踏まえ、第8回から第13回までをグループワークによって実施する。

教科書

松下 佳代 編（2015）『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房

参考文献

- （1）各自で自己のテーマに関する学術的専門書・論文を選択し、熟読熟考すること。
- （2）天野 一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか - 格差社会の超エリート教育事情』中公新書ラクレ

学生に対する評価

スクーリング評価（30%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（45%）を総合して評価する。